

廃材遊び

<実施時期>
5歳児
8月

○**ねらい**: 様々な素材に興味を持ち、自分なりに工夫したり試したりしながら作って遊ぶことを楽しむ。

○**内容**: 必要な素材を選び、友達とイメージを共有しながら作ることを楽しむ。

「きりん村」を作るというテーマで廃材遊びを行った。1回目の時にA児とB児は箱に入れるほどの大きさのダンボールと開いたダンボールを選び、家を作り始めた。箱のダンボールに開いたダンボールをガムテープで貼り、立たせようとしていた。何度も挑戦していたが、倒れてしまい思い通りにいかずに困っていた。「どうしたら立つのかな?」と声を掛け、試行錯誤できるように見守った。また、保育士が「玄関はどこなの?」と聞くと「上から入るんだよ」と実際に見せてくれたが、またいで入る大変さと危険性に気づき「入りにくいな」という表情をした。大きいダンボールをトンネルのようにしていた他児の遊びを見せてヒントになるようにしたり、「先生も家に遊びに行きたいけど入れるかな?」と考えるきっかけになるような声掛けをした。2回目になると、前回のヒントを思いだし、ダンボールをトンネルのようにして玄関を作ったり、開いたダンボールを壁に見立てて、そこにガムテープでトンネルを貼り、空間を作ったりして家作りを進めていた。「やったー!できたね」と嬉しそうに友達と喜び合っていた。すると、それを見ていたC児がティッシュボックスをトンネルの入り口の大きさに合わせて組み合わせ、更に丸いカップを貼りつけてドアを作ってきた。A児とB児に「ドアがないと泥棒が来ちゃうよ」と言ってみせると、「おーそれいいね」「じゃあ、窓もいるんやない?」「ぼく作るわ」と友達と意見を出し合い、少しずつ家の形になっていった。



今回の活動の中で、作りたい物のイメージに合わせて何が必要かを考え、適した素材や道具を選択し、子どもたちなりに工夫して作っていきこうという姿勢が何度も見られた。複数の友達と協力したり、話し合ったりして進めて行くことで、一緒に作り上げる楽しさやつながりを感じることができた。興味関心がある楽しい活動であれば、上手いかない事も根気よく繰り返しやってみようとしていた。また、物的・人的環境の充実により、子どもの活動は広がり、子どもの学びに繋がっていくと思う。

環 境	教員・保育士の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の素材と用具を準備する。 ・遊びが展開しやすいように広い場所を確保する。 ・製作コーナー、廃材を置くコーナー、組み立てる場所の3つに分けて、子どもたちが活動しやすい環境を構成する。 ・素材や用具の場所を整理し、子どもたちが安全に製作活動ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが作り方や使い方に困っている時は、様子を見守りながら、気持ちに寄り添って一緒に考え、試していけるように援助する。 ・子どもが自ら工夫したり、試したりする姿を見守り、子どもの発見やアイデアに共感したり、認めたりして自信をもって活動できるようにする。 ・ハサミやテープカッターなど用具を安全に使えるように声を掛けていく。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(幼稚園教育要領・保育所指導指針・幼保連携認定子ども園教育・保育要領より)

健康な心と体	○	思考力の芽生え	○
自立心	○	自然との関わり・生命尊重	
協同性	○	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○
道徳性・規範意識の芽生え		言葉による伝え合い	○
社会生活との関わり		豊かな感性と表現	○

○小学校生活とのつながり

- ・用具の正しい使い方を知り、安全に気をつけて遊ぶことができる。
- ・遊びの中での気づきや発見、イメージを形にして表現することができる。
- ・自分の思いを伝えたり相手の気持ちを考えながら、共通の目的に向かって友達と協力して取り組むことができる。